

研究課題（テーマ）		幼児を持つ母親の精神的健康に関する研究 ―就業状況による比較―	
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	看護学部	助教	浜多美奈子
	看護学部	教授 講師	田中いずみ 遠田大輔
研究結果の概要			
＜令和5年度の遂行内容＞ 本研究は、幼児を持つ母親の就業状況による精神的健康の実態を明らかにすることを目的とし、富山県内の幼児を育てる母親を対象に実施した質問紙調査の質問紙の回収およびデータ分析を行った。研究結果の一部（以下）について令和5年10月第82回日本公衆衛生学会総会にてポスター発表を行った。 【目的】 幼児を持つ母親の就業状況による精神的健康の実態を明らかにし、働く母親の精神的健康の保持増進および就労継続に向けた支援への示唆を得る 【方法】 幼児を持つ働く母親のストレスとその対処法についての自由記載を KH Coder を用いて形態素解析を行い、共起ネットワークを作成した。 【結果】 325 名より回答が得られ、有効回答である 274 名を分析対象とした（有効回答率 84.3%）。対象者の平均年齢は 36.5±5.0 歳であった。核家族世帯（夫婦と子）が 191 人（69.7%）で、子供の数は 2 人（52.6%）が多かった。非常勤職員・パートは 128 人（46.7%）であった。「ストレスになること」の自由記載を分析した結果、頻出語上位 5 語は「時間」「子供」「仕事」「家事」「準備」であった。共起ネットワーク分析の結果、＜帰宅後すぐに家事と育児をする＞＜保育園の送迎による出勤・帰宅への影響＞＜食事の準備が進まない＞＜仕事や子供への対応による自分の時間のなさ＞＜家庭でやらなければならないことが多い＞＜子供が言うことを聞かない＞の 6 つのサブグラフに分類された。次に、「ストレスをためないように工夫していること」の自由記載を分析した結果、頻出語上位 5 語は「時間」「自分」「1 人」「子供」「作る」であった。共起ネットワーク分析では、＜家族や友人と関わる＞＜自分ひとりの時間を作る＞＜無理をせずに夫に頼る＞＜休日に気分転換をする＞＜食事や買い物を楽しむ＞の 5 つのサブグラフに分類された。 【考察】 母親は、「時間」に関するストレスを持ち、時間のゆとりを求めている。また出勤前や帰宅後の子の世話や子の病気への対処などの「子供」による仕事への影響がストレスとなっていた。ストレス対処として、自分の時間を持つこと、家族・友人など身近な関係者から支援を得ることが示された。母親の精神的健康の向上には、母親がゆとりを持てる時間の確保に加え、ストレスや困り事を気軽に相談できる相談体制の整備や子育て支援活用への援助を行い、母親のストレス対処を強化していくことが重要だと考える。			
今後の展開			
今後は本研究の成果について論文投稿を目指す。またインタビュー調査などの質的研究アプローチにより、母親の就労とメンタルヘルスに関する関連因子を明らかにしていく。			